

○現状と対策レポート（第2号）

課題1 コロナ対応の拠点となる市立札幌病院において、退院できる患者の受入病院がなく、後方支援病院の確保が急務となっている

- 対策 ①医療が必要な方は病院、若干経過観察が必要な方については宿泊療養、それ以外のリスクの低い方については自宅と、感染状況に応じてこの3段階に分けて実施していく。
- ②後方支援病院の確保に努めている。

課題2 介護が必要な陽性患者の受入先の確保に大変苦慮している

- 対策 ①入院病床に余裕を持たせるため、無症状、軽症の方などでリスクの低い方については自宅療養の対応を行っている。
- ②介護が必要な陽性患者の受入先の確保に努めている。

課題3 接待を伴う飲食店などから、病院や福祉施設、さらには会社や学校といった様々な場所で感染が発生し広がっている

- 対策 ①急速に感染拡大しているため、自宅療養も11月11日から札幌に限定して開始している。また、自宅療養者が外出せずに安心して療養できるよう、食料品等が入った「自宅療養セット」を届ける取組を開始した。
- ②保健所の体制強化などにより、1週間あたり約1万人以上のPCR検査等を実施。（1ヵ月前は1週間の検査数約3500人）
- ③宿泊療養施設3棟合わせて1,300室確保のほか、4棟目の施設確保に向けて調整している。

課題4 接待を伴う飲食店などのクラスターは減少しているが、次の対策を必要としている

- 対策 ①すすきの地区の飲食店に対し集中対策期間を12月11日まで延長して、営業時間の短縮などの協力を要請している。
- ②市内全域の接待を伴う飲食店に対し、12月11日まで休業を要請している。

課題5 特別養護老人ホーム（入所者100名規模）の高齢者施設などで、重症化リスクが高い人への感染が発生している

- 対策 ①クラスターが発生した時は、すぐに現地対策本部を立ち上げ、現地の状況、そこに入所されている方の病状をいち早く把握して、症状の重い方がいれば優先的に入院の措置を引き続きとっている。

課題6 自宅療養者が多くなってきており、症状が急変した時の相談先や診療先が見つげづらい

- 対策 ①相談先として救急安心センター（#7119）への案内を新たに開始している。
- また、オンライン診療の周知を検討するなど、医療機関の負担軽減を図っている。

課題7 年末年始において入院受入れなどの医療提供の継続が必要となっている

- 対策 ①各医療機関に対し、年末年始期間における新型コロナウイルスの発熱外来当番や入院引受について協力要請している。

課題8 発熱等の症状がある患者や高齢者等の救急搬送について、受入先決定までに時間を要する事例が多くなっている。

- 対策 ①各医療機関に対し、発熱等のある患者や高齢者施設等からの患者の救急搬送の受入について協力要請していく。